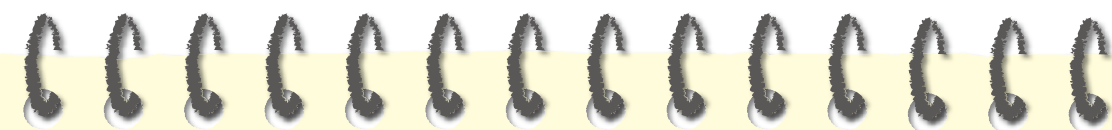




1994年（平成6年）に横断性脊髄炎を患って、ベッド上の寝たきり生活となりました。その後、乳がんや多発性硬化症の診断を受けました。左手のリハをすることで、利き手ではないですが、左手を使えるようになりました。そして、左手でネット手芸やレース編み、折り紙等の数多くの作品を手がけていました。完成した作品は、家族や病院のスタッフ、他の患者さん等、

さまざまな方にプレゼントしています。絵画は今までに描いたことはありませんが、担当のOT（和田英峰氏）に勧められ描いたことが始まりでした。この作品は、昔、散歩をしているときに見た「入道雲」を思い出して描きました。左手で描くのは大変でしたが、でき上がったときはとても感動しました。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



患者様一同（季節の作品メンバー） 「七夕」

当院では、季節ごとに集団作業療法で作品づくりを行います。今回の作品「七夕」は、患者様の願いごとが叶うよう思いを込めて作製されました。色を塗る方、鋏で形を切る方、花をつくる方、紙を丸める方、飾りを貼る方、作業を見守る方など、患者様それぞれが役割をもって参加してくださいました。この集団作業療法は、対人交流の場をもつよい機会になっています。また完成したときの達成感や喜びは大きく、それが主体的な生活につながります。毎回作品ができるごとにリハ室に飾り、患者様、職員一同で感動を共有しています。（担当OT：浅見芽紅）